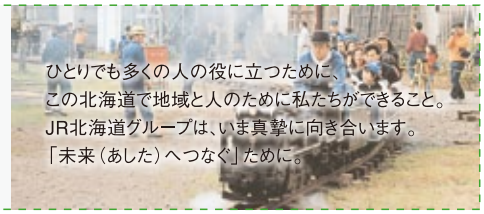
未来（あした）へつなぐ

【安全への取り組み③】



ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来（あした）へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

『冬期の安全・安定輸送』を支えるマンパワー。自然の猛威に挑むJR北海道の取り組み

一晩中、雪が降り続いても、通勤や通学で利用する最寄り駅の玄関口やその周りのスペースは始発列車が出る前からきれいに除雪されていて、「いつの間にやったのだろう…」と不思議に思ったことはありませんか？

ポイント不転換の防止対策、新型除雪車への切り替えによる除雪体制の強化と、二カ月にわたって北海道の冬ならではの取り組みをご紹介してきましたが、もうひとつ欠かせないのが冬期パートナー社員による除雪活動です。

冬期パートナー社員とは、十二月から翌年三月までの期間限定で除雪を専門に担当する社員のこと。JR北海道のOBや地元農家の人たちを中心に構成され、毎日約九〇〇名体制で降雪に関係なく日勤、一昼夜交代勤務、夜間勤務の三パターンの勤務体系により、二十四時間体制で駅構内の除雪に当たっています。毎朝、最寄り駅がきれいに除雪されているのもそのため。

列車と列車の間合い、夜間など、タイミングを見はからって、冬期パートナー社員が線路やポイントを除雪。こうした陰の努力が列車の運行を支えている

列車が通る線路やポイントなどの危険な箇所も除雪対象となっていることから、入冬期前には、二度にわたる勉強会を実施、列車見張り員の養成など、冬期パートナー社員に対する安全教育の徹底にも努めています。

ただ、北海道の場合、予防除雪をはじめ、降雪状況に応じたきめ細かな除雪を行っても、予想を超えた大雪により列車の運行に支障が出ることもめずらしくありません。そんなときは、非番の冬期パートナー社員も動員し、人海戦術で自然の猛威に挑んでいきます。

平成十六年一月十四日、北見周辺の地域は列車が不通になるほどの大雪に見舞われました。十四日から十七日までの四日間に降った雪の量は、北見市で百八十センチ、遠軽町にいたっては二百十五センチに上ります。

冬の北海道は常に雪との闘いです。鉄道の分野もコンピュータ化が進み、機械の役割は年々大きくなっていますが、自然相手の場面でよりどころとなるのはやはり人の力。高性能の除雪機械や設備とともに、冬期パートナー社員一人一人の力が『冬期の安全・安定輸送』を支えているのです。

平成16年1月14日未明から全道的に暴風雪となり、札幌圏各駅ではポイント不転換が多発し、ダイヤが大幅に乱れる事態となった。また、オホーツク海側では豪雪のため、石北本線、釧網本線が17日まで運行不能に。左の写真はそのときの石北本線・女満別駅の様子。右は石北本線の北見駅構内。前途運休となった「特急オホーツク1号」